

スケジュール帳その2

2023.2.7

私が愛用しているスケジュール帳には、最初のほうに月ごとのカレンダーのようなページがある。月間スケジュールのコーナーである。ここには、仕事以外の大事な予定を書いていた。だが、数年前から記録帳の役割も果たすようになってきている。

あのときどここの店に行った。どんなものを食べた。家人は、こういったことを覚えている人である。私はというと、覚えていない。あるとき、スケジュール帳の月間カレンダーのページを開きながら、ふと先週の週末に何をしていたのかを思い出してみた。何も出てこない。さすがに焦った。病気なのか。これはまずいのではないか。

ここから何かにかき立てられるように、出かけた場所やお店を書き込むようになった。すると、それを見ていると、記憶のスイッチがオンになるのか、いろいろなことが記憶の箱から出てくるようになった。

以来、ずっと続けている。今では、帰宅するまでに、どこのお店に行ったのかを忘れてしまうのがこわい。重症である。そこで、とりあえずスマホにメモしておき、家でスケジュール帳に書くようにしている。

これも以前のことだが、今年の今頃に何をしていたのかを調べる必要が出てきたことがあった。もちろん、覚えてはいない。そこで、昨年度のスケジュール帳を見た。ちゃんと書いてあった。助かった。その年度のスケジュール帳の月間カレンダー全12ページを、画像としてスマホに収めることにした。たまに、使うことがあり便利である。

自然と、週末の土日の欄が埋まっていく。基本的な行動パターンは、食事、カフェ、温泉である。コロナ禍により、この週末スタイルになってきた。いかにおいしいランチを探すか。いかにおいしい味わいのある珈琲を求めるか。温泉はというと、新規開拓はほとんどなく、だいたい行き先は決まっている。それでかまわない。

珈琲のお店も、だんだんと絞られてきた。大事なことは、満足できるかどうかである。かといって、珈琲の奥深さにはまるわけでもない。昔から、ほどほど、中途半端な生き方である。これで、熱中できるようだ、人生も豊かになるのかもしれないが、なかなかそうはならない。

毎週末に、スケジュール帳に記録していく作業は、楽しいわけでもなく、面倒くさいと思うこともある。だが、ページをさかのぼっていくと、記憶が蘇り、おもしろい。たいていの場合、思っていたことと実際とでズレがある。それもまたおもしろいのだが、自分のことが心配にもなる。

最近の傾向は、業者さんが家に来る予定が増えていることである。洗濯機、給湯器、お風呂、テレビ、テレビが新しくなったと思ったらテレビのアンテナと、次から次へと、まるで順番のように壊れていく。家を建てるタイミングで使い始めたものばかりである。耐用年数からして、こうなるのは当たり前のことなのであろう。だが、スケジュール帳のメモを見ながら、ちょっとさびしい気持ちになるのも事実である。